

日本人の美意識を解く4つのキーワードがテーマ。

花・和紙・炭・流木を使った空間ディスプレイ展

～パリで日本の美意識発信～

「Eloge de l'ombre~Hana, Washi, Sumi et Ryuboku~」

のお知らせ



フラワーデザイナー・空間プロデューサーである落合邦子が 日本人の美意識を解く4つのキーワードに沿って空間ディスプレイ個展をパリで開催します。タイトルは谷崎潤一郎のエッセイ『陰翳礼賛』からとったもの。本書はフランス語訳されており、フランス人にもインパクトのあるタイトルです。

【本イベントのねらい】

日仏修好通商条約締結から150年以上がたちます。両国の交流は現在も強く、とくに文化面での交流は年々深くなっています。そのような状況の中、多くのフランス人が日本に興味を持っているのも事実です。

「日本の美意識」は今日、世界中で高い評価を受けていますが、今回のイベントは「日本の美意識を象徴する4つのキーワード」でそれを表現する、これまでにない画期的な試みです。日本文化の美意識を具体的に理解してもらうことが期待できます。

【詳細】

- 日時: 2014年6月16日～21日
11時～19時(17日19時からオープニングパーティ)
- 会場: Galerie Vivienne 41 6 rue Vivienne 1区 Paris

日本人の美意識を解く4つのキーワード

キーワード1 透ける

簾、御簾、あるいは竹林の細い隙間から見える物に美しさを感じる。オブジェのような越前和紙の繊維の隙間から、花々が織りなす色のグラデーションを透けるように見せることにより、一層の美しさを感じる。

キーワード2 垣間見る

障子の開口部から庭を見るように、対象物が一部隠されていることによって、その奥に広がるものへの期待が高まる。和紙の隙間から流木と苔で作る庭を垣間見るようにする。

キーワード3 揺れる

しっかりと固定されているものよりも、人の気配やわずかな風に揺れる物にはかなさや美を感じ、心動かされる。漆器に映る花の揺らぎを演出する。

キーワード4 見立てる

大自然や宇宙を身近なものに見立て、自然や神との共生を身近に感じる。華炭という、植物を炭にしたものを使い、箱庭のような世界観を作る。

華炭、ヨーロッパ初上陸！

自然素材の黒いオブジェにフランス人は大変関心を寄せています。

華炭を越前和紙ボックスにプリザーブドフラワーと一緒にアレンジしたものを開発しました。日本およびフランスでも販売いたします。パリ本展示会で披露します。

<華炭>

松笠、ハスの実、栗、ミカン、落花生など野菜や果物などを炭にしたもの。自然素材が黒い素材となり、デザイン界には活気的であり、また、木炭と同様に、空気清浄や湿気を取る効果が期待されるので、インテリアの置物としても最適である。



<本件に関するお問い合わせ>

■ 日本: 落合邦子 / TEL・FAX: 03-3446-5371 mail: info@hortensia.jp
有限会社アトリエオルタンシア 代表取締役 東京都港区高輪4-21-29-103 URL: <http://www.hortensia.jp>

■ パリ: 杉山雄一 / SHIPS Europe TEL: +33 1 43 37 15 38 mail: shipseurope@shimizugroup.co.jp